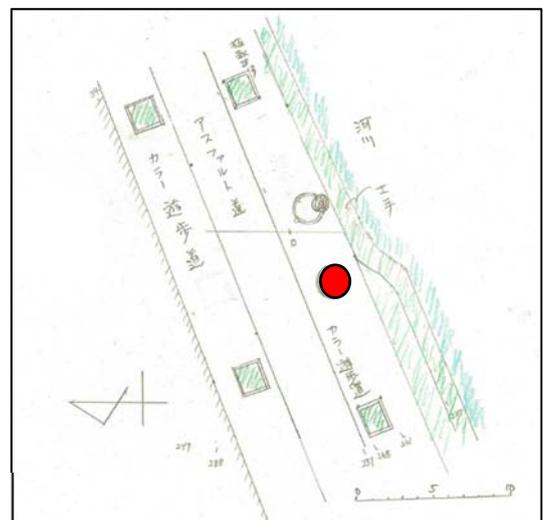


幸地河原ハーブ前のデイゴ(夫婦デイゴ)(2)



認定番号 115-2

樹種名	デイゴ	科名	マメ科	方言名	ディーク	学名	<i>Erythrina variegata ver.orientalis</i>					
形状・寸法	樹高 8.0 m	胸高周囲 2.9 m	根本周囲 3.7 m	樹幹占有面積 78 m ²								
	枝下高 2.3 m	枝張 東 4.4 m 西 4.8 m	南 7.8 m 北 3 m	最大樹冠幅 10.8 m								
通称	幸地河原ハープ前のデイゴ(夫婦デイゴ)			樹齢	100年(推定)							
所在地	名護市大東298-2			所有者	1 国 2 県 3 市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明							
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他 (史跡)			状況	1 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他							
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹(村文化財 1997年3月指定) 6 名木 7 その他 8 なし			気象条件	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ()				(最寄りの7マス ¹ データ)	平均気温(°C)	16.0	16.1	18.6	21.8	24.5	28.4
周囲の状況	1 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°)			地点:名護	平均気温(°C)	23.0	34.5	54.5	107.5	218.0	95.5	
	傾斜方向:				平均風速	23.0	34.5	54.5	107.5	218.0	95.5	
土地傾斜	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()			2015年	平均風速	3.9	3.4	4	3.6	3.3	4.2	
					風向	28.8	28.6	27.5	24.8	23.2	19.4	
土壌				年	平均気温	4.9	3.8	3	3.7	3.4	3.9	
					風向	ESE	S	SE	NNE	N	S	
基岩・母材				潮風の影響	年平均気温	23.1 °C		最高気温 33.9 °C				
					年降水量	1595 mm		最低気温 7.7 °C				
地形	1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪:窪: 9 カルスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他			日照条件	1 なし 2 ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記)							
					周辺樹木の影響	1 良い 2 普通 3 やや不良 4 不良						
土性	1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない			周辺根元の状況	1 なし 2 わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻((状況))							
					周辺樹木との関係	1 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 3 固結している a 踏圧あり b 踏圧なし						
根元及び周囲の植生	草本 1 密生 2 疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 3 なし				1 影響なし 2 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている							

管理状況	1 柵 a 有 b 無 (有の場合の高さ m、材質() 柵内面積 (m ²) 設置年										
	2 支柱 a 有 b 無 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 a 有 b 無 7 避雷針 a 有 b 無 8 定期的な草刈・掃除 a 有 b 無 9 その他										
過去の治療歴と内容											
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 6 不明										
視認性	1 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)										
特記事項	1 動物生息 a 有 b 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 a 有 b 無 (有の場合植物の種類 オオタニワタリ) 3 見学・参観者 a 有 b 無 (有の場合その数) 4 その他 観光スポット										

地上部の衰退度判定（認定番号115-2）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ジョウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 1.73

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

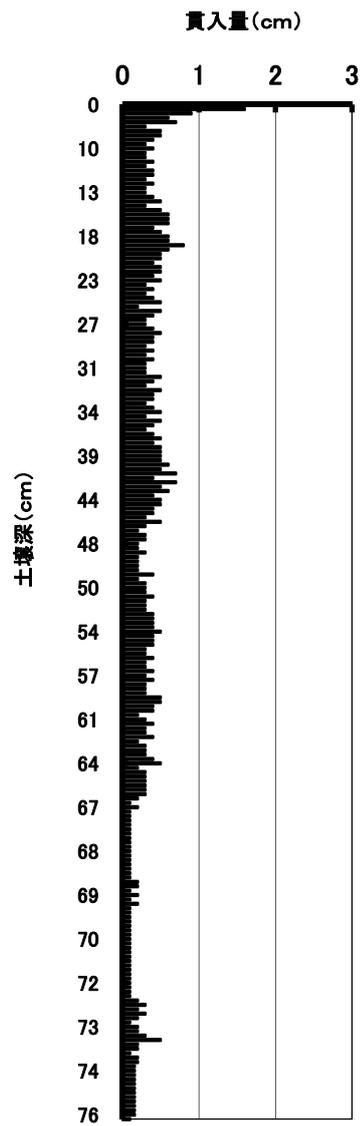
倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係				○
根返り				○
幹折れ				○
大枝折れ	○			
中・小枝落下		○		
幹の傾斜の増大				○
その他				

土壤調査結果（認定番号 115-2）

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)
I	5YR4/6	0-12	—	埴壤土	7.9	2.8
II	5YR4/4	12-22	—	埴壤土		
III	5YR4/6	22-	—	埴壤土		

土壤貫入量結果



幸地河原ハーブ前のデイゴ(夫婦デイゴ)(2)

部位	所見	対応
土壌	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道に設置された直径 2m のサークルの植柵に生育する。 ・近接する河川改修、道路整備等により柵の外は舗装される。 ・柵は黄色を呈する国頭マージで客土される。土性は埴壤土。土壌深は概ね 70cm 以上である。pH;7.9、EC:2.8(ds/m)。 ・幹の傾きは根の発達(特に道路側)が阻害されたために生じていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根圏を確保することが重要。
根	<ul style="list-style-type: none"> ・植柵に沿って伸びており、巻き根となっている。 ・南西面は腐朽が著しく、地表下 30cm まで中空となっている。 ・シロアリの生活痕が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・腐朽の進行、シロアリの発生を定期的に観察し、被害程度に応じて防止対策を講じる。
幹	<ul style="list-style-type: none"> ・樹体は南側(川側)に大きく傾斜する。 ・北面の地際～60cm の樹皮欠損部及び西側地際～30cm に傷があり、癒合剤が塗布されているが、効果を発揮してない。 南面 1.5m～地際まで、治療痕があり、塗装されているが、効果はない。 ・幹空洞内の不定根は 115-1 に比べて乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・倒伏防止のため、支柱の設置が不可欠で急を要すると考える。その上で不定根の伸長・肥大を待つ。 ・腐朽部の除去、及び殺菌消毒、癒合剤の塗布を検討する。その際に不定根を傷つけないように留意する。
枝	<ul style="list-style-type: none"> ・枝のバランスは良好であるが、幹が傾いている方向に特に伸びている。 ・中枝の一部(小枝の基部)に傷があるが、樹勢に影響を与えるほどではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南面の枝の伸長は樹体の傾斜を一層増大させるため、整枝が必要と考える。
葉	<ul style="list-style-type: none"> ・デイゴヒメコバチの被害は適切にコントロールされている。ベニモンメイガ等食用性害虫の食害痕が若干認められる程度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無し。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・維持するためには樹体の保持と活力の増進が不可欠と思われる。支柱設置と根系の確保が必須と考える。 	

